

優秀賞論文要旨

職場環境と個人特性がキャリア形成初期における 理想のキャリア・パターンに及ぼす影響

前 田 め ぐ み

現代は女性が働くことへの社会的期待が高まっており、女性が長く働くことのできる社会づくりが進んでいる。一方で、結婚・出産を機に自ら仕事を退職する女性も多く存在する。そこで、本研究は女性の結婚・出産後のキャリア選択がどのような要因から影響を受けているかを検討するため、職場環境や個人の特性が、結婚・出産後の退職・就労継続に及ぼす影響について調べることを目的とした。

神戸女学院大学人間科学部を卒業後3年～7年が経過した卒業生377名を対象とし、郵送法による質問紙調査をおこなった(返送者154名、回収率40.8%)。職場環境と個人特性を説明変数、結婚・出産後の退職、仕事継続への理想度を目的変数とし、重回帰分析を行った。なお、未婚女性の分析も行ったが、本研究の目的上、配偶者のいる既婚者や、婚約中女性の方が、「結婚・出産後の仕事の継続と退職」に関して、自分にとってより近い将来のこととしてとらえやすい立場であると考えたため、今回は既婚・婚約中女性28名の結果を報告する。

本研究の結果から、「結婚後、女性は家庭、男性は仕事をすることが望ましい」というように性役割観が伝統的である人は、「結婚後に退職することを理想的としている」ことが明らかとなった。また、職場環境や結婚後の夫の転勤に伴う転居や、家事・育児をせざるを得ないといった制約がある人は、「出産後退職し、再就職することを理想的としている」ことが明らかとなった。このことは、出産後、本人は仕事を続けることを希望しているのに、周囲の状況が

それを不可能にしている可能性があることを示している。以上のことから、一度仕事を離れた女性が復職したいと思った時、いつでも復職できるような社会的な環境づくりを行うことが、女性の活躍の場を広めることとなると考えられる。

一方で、どのような困難にも前向きに取り組もうと思える性格（高い自己効力感を持つ）でなければ、「結婚・出産後に仕事と子育てを両立することを理想的である」と思えないということが明らかとなった。また、「女性が長く働きにくい職場環境」で働いている人ほど、「結婚・出産後も仕事を続けることを理想的である」ととらえているということが明らかとなった。この点について、出産後も仕事を辞めず働き続けるためには、良好な職場環境を望むあまり、現状の職場環境では両立することが厳しいと感じるなど、現状の職場を物足りなく感じて、ネガティブ視してしまっている可能性がある。

以上のことから、現代では女性が働き続けることが期待されているにもかかわらず、未だ仕事をしながら子育てをすることが難しいという厳しい現状があることが分かった。

日本では、職場における労働時間や賃金、仕事内容の男女平等化を進める動きが活発である。しかし、家庭内における男女の役割の分担化は進んでいるとはいえない。男性であっても、家事や子育てに積極的に参加することが、女性の負担を軽減し、女性が社会で活躍する時間的・体力的余裕を生むのではないだろうか。そのためには、社会全体が男性の勤務時間短縮や育児休業といった、仕事と家庭の両立を支援するための制度に対する重要性を認識し、促す必要がある。

以上のことが改善されることで、女性の社会でのさらなる活躍が促進されることになるであろう。